

第4回 環境基本計画検討委員会 会議結果報告（概要）

日時：平成24年3月28日（水）午前10時～12時

場所：野洲市中主防災コミュニティセンター

出席：委員10人、傍聴4人、事務局4人

1. あいさつ

服部 環境課長

北出 委員長

前回の現地調査の感想として、素晴らしい活動をしてきたことが実感できた。一方で、課題が山ほどあると見せ付けられた。この課題を解決するための展望について、事例を紹介する。

2. 報告・確認

- 前回までの振り返り
 - ・ 暮らしに関わる分野の現場も見に行っても良かったのではないかな。
 - ・ フィールドワークは計画見直しのためだけでなく、野洲の現状を理解するツアーのような新しいプロジェクトとしても面白いのではないかな。
- 第2回検討委員会の報告内容確認 … 異議なし

3. 議題

- プロジェクトの実施体制について【資料1参照】

<分野わけと関係主体のつながり>

- ・ 分かりやすい、活動しやすい分野わけを検討する必要があるのではないかな。
- ・ 関係主体のつながりを意識しながら進めていけば良いのではないかな。

- プロジェクトの成果と見直し項目について

補助金の実績報告資料（H19～22）及びヒアリング結果から、県立大学で分析を行った結果を提示

- (1) 自然分野【資料2-1参照】

<役割分担による区分け>

- ・ 資料の「4）その他」に市民主体、行政主体といった協働の区分けをしてはどうかと指摘があるが、今後、行政の他分野と連携を進めていくうえで必要なことであると考えます。

- (2) ごみ・資源分野【資料2-2参照】

<行政が担う役割>

- ・ 行政の率先行動がセットで行われることで、市民の取り組みが促進される。これは市民側の課題ではなく、行政側の課題であるだろう。

- ・ プロジェクトと行政の事業がどうリンクするかが鍵であり、リンクすれば地域への波及効果が生まれてくるだろう。

(3) まち・くらし分野【資料 2-3 参照】

＜未実施のプロジェクト＞

- ・ 計画書に書かれているプロジェクトとしてでなくても、(行政の他部門を含め)他の主体で実施されていれば、それは野洲市全体としての成果だという考え方もある。

(4) 全体

＜マネジメントシステムの確立＞

- ・ 行政全体の事務事業における環境面の課題を掘り起こせる総合的なマネジメントシステムを確立していくことが必要である。

＜人づくりと拠点整備＞

- ・ 現在の活動実践者の多くは、高齢者であり、5年後にも活動が続けられるか分からないため、後継者育成も大きな課題である。
- ・ 環境コミュニティーセンターのような「見える」「触れられる」「食べられる」「コミュニケーションできる(つながれる)」などの場を作ることで、次の世代に引き継げるのではないか。

＜成果の見える化と評価基準＞

- ・ 前期5年間の成果をまとめることで、何ができたか、何ができていないか、といった全体像が把握できる。
- ・ 全ての分野において、評価基準の指摘を受けているが、5年間の実績が積み上げられたことで、現実的な目標数値を議論できるのではないかと考えている。

4. その他

(委員から)

- ・ 行政における前期5年間の取り組みを分析される際に、それぞれの所属では意識していても環境にいいことをしている事例があれば、掘り起こしをお願いしたい。

(事務局から)

- ・ 環境基本計画に関連すると思われる活動で、こちらが把握できていないものがあれば、情報を教えていただきたい。

○ 次回検討委員会

4月23日(月) 10時 ～ 野洲市役所 本館3階 第1委員会室